

白布ヶ丘だより

2月

…学校と家庭・地域の架け橋…

発行 栃木県立真岡高等学校

〒321-4331 栃木県真岡市白布ヶ丘24番地1

TEL 0285-82-3413 FAX 0285-82-2913

1 学年主任より

人から贈られた言葉や、ふとした機会に投げかけられた言葉の真意に、ずいぶんと時間がたってから気がつくことがあります。

落ちてきたら／今度は／もっと高く／もっともっと高く／何度でも／打ち上げよう／美しい／願いごとのように

これは、戦後活躍した日本の代表的詩人の一人である黒田三郎(1919年～1980年)の「紙風船」という詩です。中学生だった私が転校することになった時、当時の担任だった国語の先生が色紙に書いて贈ってくださいました。中学生の私は、正直どうして先生がこの詩を贈ってくださったのかよく分かりませんでした。しかし、大人になるにつれて、「ああ、こういうことなんだなあ」と、先生の気持ちが分かるようになってきました。「願いごと」、つまり、自分の「夢」はけっして諦めてはいけません。「夢」が叶わずじけそうなっても、何度も何度も挑戦することが大事。そして、その何度も挑戦する姿こそが、空中に舞う紙風船のように美しいのだと。「紙風船」の詩は、先生が私に贈ってくれた励ましのエールだったのです。

私自身がそうであったように、他人が与えてくれた言葉の真意に気づくには、時間や経験が必要なのかもしれません。まだ高校生である若い皆さんにとっては、親や教師の口から出てくる言葉は、どこか説教臭く、素直に聞くことができないことも多いかと思えます。もちろん、これからの新しい時代を担っていく皆さんが、世間一般の常識や古い因習にとらわれまいと、反骨精神を持って突き進んでいく姿勢はとても頼もしく感じます。しかし、さまざまな経験を積んできた大人の口から出て来る言葉には、大切な真理が含まれているのも事実です。

これまで数多くの優秀な卒業生を送り出してきた真岡高校には、皆さん一人一人の「夢」を叶える(進路実現の)ための経験や知恵がたくさんあります。私たち教員は、皆さんが真岡高校に入学したその時から、皆さんの3年後を見据え、その人その人にとって必要なアドバイスや、その時期その時期に必要な支援等を、適切に判断し実践しながら日々皆さんと向き合っています。時に、「何で同じことを何度も言われるのか」「何でこんなことをさせられるのか」と思う時もあるかもしれませんが、でも、私たちの言葉に素直に耳を傾けてみてください。そこには、皆さんが「夢」に近づくヒントがたくさんあるはずです。そして、皆さんがそれぞれの「夢」を叶えて、この真岡高校を巣立っていかれること。それが、私たち教員の「夢」なのです。

2 学年主任より

「人生は、引き算の連続である」と常々実感しています。翌週までに提出しなければいけない課題や、月末までに仕上げなければならない作業など、物事には必ず期限が付きものです。その期限までに物事を成し遂げるためには、綿密な計画と確実に遂行する実践力が必要不可欠です。「ただ何となく」物事に取り組んでしまうと、「それなりの」結果しか手に入らない、という教訓はこれまで多少なりとも経験してきたことではないでしょうか。

高校生活も、入学と同時に卒業を意識した日々が始まります。すでに2年の月日を過ごしてきたみなさんは、1年後にはこの白布ヶ丘を巣立っていくこととなります。残りの日々をどのように過ごすかは、もちろん各自の考え方が異なりますが、少なくとも、誰もが「良き日々を過ごしたい」と考えているはずで、では、各々にとって「良き日々を過ごす」とはどんな時間を過ごすことなのか、具体的に考えてみてはどうでしょうか。もちろんそれは、充実した時間を過ごすという意味に他ならないのですが、よく耳にする「勉強に力を入れる」「部活をがんばる」という目標は、具体的ではありませんね。「いつまでに」「何を」「どのような形に」していくのか、明確な形で到達目標を掲げることが大切です。そこから現在までの時間を逆算し、月単位や週単位での通過目標を掲げてみると、今、何をすべきかがはっきりとした形で見えてくるのです。

次に、目標や実践計画ができたなら、すぐに実行に移しましょう。実践中は通過目標の到達度に多少の誤差が出ますが、各々が決めた単位時間ごとにその達成度をチェックし、修正しながら自己管理に努めます。周りの友人たちと目標を共有して相互扶助の精神で取り組めば、さらに達成度が増します。まさに切磋琢磨。互いに支えあうことができる環境が、ここ白布ヶ丘の強みでもあります。また、職員室を訪ねて、悩みを先生に相談することも、停滞している状況を打破する有効な方法の一つです。気兼ねなく話をしに来てください。

何はともあれ、自己の現状を冷静に分析して把握し、目標までの距離を正確に測りましょう。あとはゴールまで邁進するのみ。目標達成まで、徹底してやり抜きましょう。最後まで諦めずに、自分自身の力を限りなく信じて。残された日々を、共に素晴らしいものにしていければ幸いです。

サッカー部 10年ぶりの快挙 県新人大会優勝



2月4日(土)、平成28年度栃木県高等学校サッカー新人大会決勝戦が行われ、本校サッカー部が矢板中央高校を1-0で破り、みごと優勝しました。県新人大会の優勝は10年ぶり7回目の快挙となります。準決勝で佐野日大に延長戦の末1-0で勝利して、先の選手権大会のリベンジを果たし臨んだ決勝戦は、矢板中央の猛攻を堅いディフェンスでしのご展開の中、後半終了間際のチャンスでPKを獲得し、それを手堅く決めて逃げ切りました。

グラウンド改修により練習環境が向上する中で、さい先のよい結果を得ました。キャプテンの「まだ、始まったばかりです。」のコメントにも現れているように、チームとしてさらに高みを目指す勢いが感じられます。今後の活躍にも期待しましょう。

第2回学校評議員会開催

2月17日(金)本校会議室に於いて本年度2回目の学校評議員会が開かれました。今回の趣旨は、学校評価アンケートの結果とそれに基づく学校の自己評価を評議員の方々にご覧いただき、ご意見をいただくことにありました。学校側の説明の後、生徒による「真岡高校でいかに自分が成長しているか」をテーマにしたプレゼンテーションがあり、それらについてのご質問やご意見、普段の学校運営に関するご意見等もいただきました。いただいたご意見の内容については学校関係者評価として、本校の自己評価、アンケートの結果とともに年度末にHPにて公開されますので、詳しくはそちらをご覧ください。



生徒会より

2月19日(日)、益子町PTA連絡協議会が主催する「益子町3中サミット」に本校生徒会の大津会長をはじめ10人の役員が参加しました。同サミットのセミナーで、高校生が講師を務めるのは5度目です。今回は特に1年生役員を軸に講師の役割を果たしてきました。当日は、「自己理解」というテーマで、自分の好きなこと、嫌いなこと、その理由について深く掘り下げて考えることによって、自分の将来像を幅広く考えて行くための指針を打ち立てることを目的としました。各グループの中学生達が真高生のリードにより自己理解を進め、活発な討議がなされました。生徒会会計1年生の神保君は、「中学生達の討議を通しての成長を感じるとともに、真高生も今回のテーブルコーディネートを通して各自のスペックを向上させることができた。」と話していました。



〈中学生を前に熱くピーターパンについて語る神保君〉

行事予定

2月

- 21日(火) 学年末テスト(～24日)
- 25日(土) 土曜開放
- 27日(月) 卒業式準備・大掃除
- 28日(火) 同窓会入会式・表彰式・卒業式
予行・白布ヶ丘PTA通信発行

3月

- 1日(水) 卒業式
- 3日(金) 午前中授業
午後学力検査準備・大掃除
- 6日(月) 学力検査・生徒登校禁止(部活なし)
- 7日(火) 生徒休業
- 8日(水) 生徒休業
- 9日(木) 生徒登校禁止(部活なし)
- 10日(金) 合格者発表
- 11日(土) スタディーサポート(1年)
サタデーセミナー(2年)
土曜開放
- 15日(水) 短縮日課(45分授業)
- 16日(木) 生徒休業(定時制入試)
- 17日(金) 合格体験発表会
- 22日(水) 平日課外
- 24日(金) 修業式・大掃除
- 27日(月) 新入生オリエンテーション